


- (1) ねらい 和音の響きの違いや移り変わりを生かして表現したり、つくった旋律を発表し合って気付いたことなどを伝え合ったりする学習活動に主体的に取り組むことができる。
- (2) 評価規準 自分の思いを基に旋律の音の動き・和音の響きの移り変わりを考えて旋律をつくり、和音の働きか生み出すよさや面白さ、美しさを感じながら、音から音楽へと構成し全体のまとまりを意識した音楽をつくる活動を行っている。
- (3) 学習展開 (1/2)

過程	学習活動	教師の指導・援助（留意点）
導入	<p>1 本時の内容を把握する。和音を確認して、それに合う旋律作りをする見通しをもつ。</p> <p>2 課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">和音にふくまれる音を使って旋律をつくろう</div>	<p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者用デジタル教科書のワークシートを児童に提示し、本時の学習内容について、児童と同じ画面を使って説明する。
展開	<p>3 どんな旋律にしたいかという願いを明確にした後、学習者用デジタル教科書のワークシートを活用して旋律を考える。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> <ul style="list-style-type: none"> 「この音は違うかな、この音がいいな」と考え、試行錯誤しながら取り組む。 近くの児童の音も聴き、参考にしながら取り組む。 繰り返し再生し、願いにあった旋律をつくる。 </div> <div style="flex: 1;">  </div> </div>	<p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者用デジタル教科書のワークシートを活用することで旋律作りを手軽に並べたり、試したりしやすくする。 繰り返し再生することができるので、自分の願いに合っているかを確認することができる。演奏する技能に関係なく取り組むことができる。
終末	<p>4 教師が画面共有して旋律を再生し、つくった旋律を全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の願いにあった旋律になっているかについて確かめながら交流をするようにする。 仲間の旋律を聴いて、自分と似ているところや違うところを見つける。 演奏しながら発表する従来の方法と比べ、繰り返し聴いたり、一定の部分に注目して聞き合ったりしたことで、気付いたことを交流する。 	<p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が作成した物を大きくスクリーンに投影することができるため、楽譜と音を同時に共有することができる。 タブレットで演奏できるので自信をもって交流することができる。